

子どもの社会参画をすすめるための



# 実践例・ポイント集

子どもの活躍の場を増やして、  
子どもも、大人も、まちも元気になろう!



子どもが自分で  
できることを  
見つける



子どもが  
アイデアを  
出し合う



子どもが  
力を発揮する



# 地域の中で、子どもの役割や出番を、 もっと増やしてみませんか？

最近の子どもたちを見て

「家と学校と塾だけが生活の場になっている…」

「自分で役割を持って活躍できる場面が少ない…」

「家族や仲間以外の人と、

上手にコミュニケーションをとることができないみたい…」

と感じることはありませんか？



地域の中で、子どもにこんな機会があったら…

◎年齢や立場の違う人たちと、地域のために一緒に活動する

◎家庭や学校ではなかなか体験できないようなことにチャレンジする

→ 子どもの社会性が育まれ、自分に自信を持つことができ、自立した大人になるための力を身につけていくことができます。

→ 子どもの力が、まち自体の活性化や、皆にとって住みやすいまちづくりにつながります。



子どもの社会性は、

○低年齢（4～12歳くらい）のうちから

○身近な地域で

○年齢・立場・考え方の異なる人たちと  
コミュニケーションをとりながら

○自分の役割を持って行動したり、意見を  
言うなど、様々な経験を積むことで

時間をかけて少しずつ育まれていきます。

## 大人の皆さんが、子どもの活躍の場をつくり出したり、 子どもの活動をあと押ししてあげてください！

Q 地域で子どもの社会性を育む・子どもの社会参画をすすめる取組をするためには、どうすればいいの？

A 以下の10の視点を、今、地域で行われている取組に生かすようにしてみましょう！

子どもの社会参画とは…  
子どもたちが、自分たちが暮らしている社会のできごとに意見を言ったり、関わったりすること

- 1 大人がまず自ら行動し、子どもを巻き込む
- 2 子どもと大人とが、互いによいパートナーとなって一緒に取り組む
- 3 自分にできることを見つけたり、つくり出していく気持ちを育てる
- 4 達成感・充実感を味わえる経験を増やし、子ども自身の潜在的能力を引き出す
- 5 異なる年齢・世代・立場の人が交流する
- 6 実際の社会に関わりながら、社会への関心や具体的な行動につなげていく
- 7 全ての子どもに知ってもらい、参加してもらう
- 8 協力者とは、互いのメリットとなる関係になるよう工夫する
- 9 子どもの気持ちを深く理解した上で、関係者を調整し提案できる人を取組に加える
- 10 大人や子どもが継続して参加できるように、活動の核となる場所を定める

→次のページから、10の視点が実際に生かされている取組をご紹介します！

かながわ 子どもの社会参画をすすめるシンボルキャラクターの「ランちゃん」です！



私が取組を  
ご紹介します！

【名前】 神奈川ラン(ランちゃん)

【プロフィール】〈身長〉150cm 〈体重〉ひみつ♡

〈誕生日〉6月2日(開港記念日)

- 神奈川県で生まれた元気な女の子
- とくに横浜が好きで中華街によく行く  
(横浜市南区 福原奈々子さん(中学2年生)の作品)

このキャラクターは、事前にお申し込みいただいた上で、県内市町村や、団体が行う子どもの社会参画のイベントなどのPRに、無料で使っていただくことができます。(キャラクターを印刷した商品の販売など、商用目的の利用はできません。)

詳しくは、県青少年課(連絡先は最終ページ)へ  
お問い合わせください！

☆大人がまず自ら行動し、子どもを巻き込む

# 防災訓練を兼ねた一泊キャンプ

～災害時の避難所生活の疑似体験とお楽しみキャンプの合体版～

(秋津コミュニティ)

千葉県習志野市秋津では、防災被災訓練を兼ねた、父子向け※のお楽しみ一泊キャンプを、子どもの身近な小学校の校庭で行っています。

このキャンプは、阪神淡路大震災の翌年から続けており、お父さんは、テント張り、夕食の準備、キャンプファイヤー、子どもへの添い寝などの体験をすることで、父子や他の家族との助け合いの絆を深めています。



防災訓練は、元々町会が行っていましたが、緊急時に活躍する若い男性の参加者が少ないことから、お楽しみ一泊キャンプと合体させたことで、お父さんがいる家族の参加を増やすことができました。

※保護者とその子どもを対象としたキャンプですが、主に  
お父さんに参加してもらうことをねらいとしています。



テントを張ったり、ご飯を作ったり、頼もしいお父さんの姿が見られるのが楽しみ♪

## ここがポイント!

対象：小学1～中学3年生

(保護者と一緒であれば就学前児童も参加可能)

☆お父さんが、近所の人と助け合いながら、テントを張ったり夕食の準備をしたりする姿を、子どもに見せることができます。

☆キャンプの参加者の保険代は、元々防災訓練を行っていた町会が負担しており、参加者の自己負担を減らし、参加しやすい形となっています。

☆子どもと大人とが、互いによいパートナーとなって一緒に取り組む

# きっずキャプテン

～児童館の活動を盛り上げる子どものリーダー～

(社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 KFJ多摩すかいきっず)

川崎市多摩区の児童館「KFJ多摩すかいきっず」には、児童館の子ども向けイベントの企画や実施に、一年を通して参画する子どものリーダー「きっずキャプテン」がいます。

きっずキャプテンと、イベントをお手伝いしてくれる子どもの実行委員とで、ベイブレード大会の審判や全体の運営を行ったり、近くの商店街のお祭り「ナイトバザール」に、自分たちが考えたゲームのお店を出店しました。



児童館の壁には、皆がやってみたい行事に関するアンケートの紙を貼り、そこに書き込まれた意見を実現できるかどうか、きっずキャプテンが話し合っています。

きっずキャプテンの保護者の方からは「子どもが有意義に過ごせているようでよかった」という意見が寄せられています。



イベントの後には、反省会をして、上手くいかなかった点を考え、次につなげるようにしているよ！  
リーダーって、大変だけど、やりがいがあるよね！

## ここがポイント！

対象：小学1～6年生

☆きっずキャプテン、子どもの実行委員、児童館のスタッフとで、一緒にイベントを作っていくという意識を持って取り組んでいます。

☆地元の商店街などの協力を得て、子どもたちが地域に愛着を持ち、大人に見守られていることを感じられるようになることをめざしています。

- ☆子どもと大人とが、互いによりパートナーとなって一緒に取り組む
- ☆子どもの気持ちを深く理解した上で、関係者を調整し提案できる人を取組に加える

## 茅野市こども会議

～子どもと大人は茅野市の未来を創るパートナー～

(茅野市、茅野市教育委員会)

長野県茅野市では、子どもたちが、大人への意見や、市政に対してのアイデアを出す「茅野市こども会議」を開催しています。

会議の企画や運営は、できる限り子どもたちの自主性に任せ、市では、出された要望や提言を、市の施策に反映させるよう努力しています。



会議の進行役は、子どもの意見が出ない時も急がずに待ち、子どものちょっとしたつぶやきも拾い上げて広げていき、意見や主張につなげています。



大人がきちんと耳を傾けてくれ、大人と向かい合って話すことができ、とてもよかった!

### ここがポイント!

対象：中学1～高校3年生

☆茅野市では、子どもを含む市民と市とが、お互いの考えや意見をキャッチボールしながら、様々な施策を進めています。

☆こども会議の進行役は、子どもが話しやすい雰囲気をつくるように努めています。また、地域の大人が、こども会議をサポートしています。

☆子どもと大人とが、互いによりパートナーとなって一緒に取り組む

☆全ての子どもに知ってもらい、参加してもらう

# 児童青少年センター（ゆう杉並）

（児童青少年センター（ゆう杉並）中・高校生運営委員会）

東京都杉並区には、中学生・高校生の意見を生かした居場所である大型児童館「児童青少年センター（ゆう杉並）」があります。

この施設が、実際に利用する人に使いやすいものとなるように、児童青少年センター（ゆう杉並）中・高校生運営委員会に参加する中学生・高校生が、施設の運営に対して意見を述べたり、事業の企画、準備、運営などを行っています。



利用者が感じたこと・不満に思ったことを投書する「ゆうに一言」は、利用者である中学生・高校生が、身近な居場所を変えていくことができる取組であり、投書は月に1回委員会の広聴部会が回収し、内容等の別に分類して話し合った上で、返答しています。



時には児童館の職員と意見がぶつかることもあるけれど、自分たちの居場所が、もっと使いやすく楽しい場所になるように、取り組んでいくことができるのがいいよね!

## ここがポイント!

対象：中学1～高校3年生

☆委員会の委員と児童館の職員は対等であり、一緒に、中学生・高校生にとって魅力的な施設にしていこうという意識を共有しています。

☆児童館が、利用者自身で変えていくことができる施設であることを知らせるため、様々な周知を行っており、児童館紹介ビデオを自分たちで作成する予定です。

☆自分にできることを見つけたり、つくり出していく気持ちを育てる

## 6年生を主体とした子ども会行事の企画・運営

～最上級生としての一年の成長過程～

(鳶尾5丁目青空子ども会)

厚木市の鳶尾5丁目青空子ども会では、6年生が子ども会の活動の主体となり、行事を企画・運営したり、新聞を発行しています。

6年生は、春の1年生を迎える会や、夏のお楽しみ会などの行事の前に何回も集まり、話し合いや準備をします。

5年生は6年生のサポート役となり、子ども会の役員である大人は、お金を管理したり、買い物の際に車を出すなどの手伝いをします。

子ども会の役員の大人は、6年生の企画が、自分たちだけでなく年下の子も楽しめるようなものとなっているか気づかせるための声かけをしたり、話し合いに積極的に参加したがない子の意欲を引き出すよう努めています。



鳶尾5丁目青空子ども会で発行している新聞  
(6年生が作成)



話し合いでは、意見が合わないこともあるけれど、最上級生としての責任を持って、みんなのために、楽しい行事を企画したいよね!

### ここがポイント!

対象：小学6年生  
(子ども会の対象は小学1～6年生)

☆自分たちが主体となって活動する1年間で、子どもたちは大きく成長します。

☆大人は、子どものやる気を引き出したり、大事な視点に気づくよう声をかけるなどのサポート役となっています。

☆自分にできることを見つけたり、つくり出していく気持ちを育てる

# 子どもたちがまちを創る

～子ども主体の仮想のまち「ミニヨコハマシティ」の活動～

(NPO法人ミニシティ・プラス)

「ミニヨコハマシティ」(通称ミニヨコ)は、年に1回、3日間ほど出現する、子どもが主体の仮想のまちです。

ミニヨコに集まった子どもたちは、市民登録を行い、ハローワークを通して仕事をもらい、まちの中のお店などで働きながら、ミニヨコの中だけで使えるお金「ミニヨン」を稼ぎます。



大人は口出し禁止が原則で、子どもがまちをつくる時の参考となるように、実際の仕事場を見学・体験する機会をつくるなどのサポート役に徹しています。

また、平成23年は、震災を機に、畑で野菜を育て、収穫したものを皆で料理して食べる、自給自足のまちづくりに取り組んでいます。



大人にあれこれ注意されたりしないで、自分たちのアイデアでまちをつくっていくなんて、楽しそう!

## ここがポイント!

対象：1人で参加できる歳～19歳

☆子どもも、まちに暮らす一員であるという視点や、まちは、様々な人が関わり合っていてできているという、まちづくりの視点を大事にしています。

☆様々な企業や大学などとネットワークを築きながら、大人が子どもたちの活動をサポートする姿を、子どもに見せています。

☆自分にできることを見つけたり、つくり出していく気持ちを育てる

# ぷちひらつか

～「キッズビジネスタウン」におけるまちづくり～

(子どもの社会性を育む方策実践検証委員会)

「ぷちひらつか」は、小学生がまちの市民となり、仕事や買い物などを体験しながら、協力し合ってまちをつくり、社会の仕組みを学ぶ取組です。

平成23年度は、平塚市内の商店街でぷちひらつかを実施し、子どもたちが、広場に設置されたブースや、本物の商店などで働いて、ぷちひらつかの中だけで使えるお金を稼ぎ、そのお金を、実際の商店街で使うことができる仕組みを実現させました。



また、子ども議員や子ども市長が「子ども会議」を開催し、子どもが主体となって、まちづくりを計画・実践しています。

高校生、大学生、学校の先生などが、子ども議員の活動をバックアップし、子どもたちが地域の大人と交流しながら、地域の課題について考え、問題を解決する力や、生きる力を育むことを目的としています。



実際のまちの中のお店で働いたり、もらったお金を本物のお店で使ったりできるなんて、おもしろそう!

## ここがポイント!

対象：小学1～6年生  
(子ども議員は小学4～6年生)

☆実際の商店街で取組を行うことで、現実の社会や地域の大人と関わりながら、子どもが社会の仕組みを学んでいくことができます。

☆協力している高校生、大学生、大人それぞれにとって、学びの場になっています。

- ☆自分にできることを見つけたり、つくり出していく気持ちを育てる
- ☆子どもの気持ちを深く理解した上で、関係者を調整し提案できる人を取組に加える

## 一日冒険遊び場

～「自由に遊ぶ」がモットー。「親は口出し、手出しはしない」「ケガとゴミはお持ち帰り」～

(かまくら子育て支援グループ懇談会)

鎌倉市内の子育て支援団体や母親グループのネットワーク組織であるかまくら子育て支援グループ懇談会は、市内の2箇所をメイン会場として、参加者が自由に遊ぶ「一日冒険遊び場」を、毎月約1回実施しています。

会場には、木工用具や、昔遊びの道具が用意され、子どもの興味や関心を引き出してくれるプレイリーダーがいます。毎回テーマはありますが、



そのテーマにこだわらずに、親が子どもを「見守り」ながら、子どもが遊びたいように遊ぶ場所です。

時間の区切りがないので、気持ちが大きくなり、子どもは自分のペースで遊び、親もそれを待つことができる場となっています。



いつもとは違った遊びを楽しめる場所みたい！  
行ってみたいな～！

### ここがポイント！

対象：小学生～中学生  
(乳幼児の参加実績もあり)

☆親が夢中になって遊ぶ姿を見て、子どもが興味を持ち、色々なことに挑戦するなど、親子双方にとって体験の場となっています。

☆ものづくりが得意で、子どもに一番危ないことだけを教え、失敗しても見守っているプレイリーダーの存在が、楽しい遊びの場をつくり出しています。

- ☆自分にできることを見つけたり、つくり出していく気持ちを育てる
- ☆達成感・充実感を味わえる経験を増やし、子ども自身の潜在的な能力を引き出す

# くだけけバザー

～子ども企画によるバザーへの出店～

(NPO法人くだけけ会)

不登校やひきこもりなどの困難を抱える子どもへの支援などを行っているNPO法人くだけけ会は、活動費を得るための「くだけけバザー」を行っています。

年2回の定例行事であるバザーの時期が近づくと、小学生から高校生くらいまでの子どもたちが、自主的に企画や準備を進め、バザー当日は、各自が役割分担し、値引きや閉店間際の売り歩きなど、子どもが臨機応変にお店を運営します。



バザーの運営側は、子どもが安心して取り組めるように、家族ぐるみでバザーに参加してもらったり、子どものお店は子どもが主体となって運営していることを理解してもらうための広報を行っています。



たくさんの人に来てもらえるように、学校でチラシを配るなど、自分たちでPRも工夫しているよ!

## ここがポイント!

対象：小学生～高校生

☆不登校やひきこもりなどの困難を抱える子どもも、一緒に協力し合い取り組んでいます。

☆年2回、定例行事として同じ会場で実施しており、前回の経験を基に子どもが自ら工夫し、出店の内容もレベルアップしています。

☆異なる年齢・世代・立場の人が交流する

☆子どもの気持ちを深く理解した上で、関係者を調整し提案できる人を取組に加える

## こどもキャンプ

～大人の目のない、子どもと青年だけのキャンプ～

(NPO法人横浜こどものひろば)

子どもたちの成長や発育段階に合わせた文化活動を展開しているNPO法人横浜こどものひろばでは、横浜市内の4つのエリア毎に、会員である小学4年生から高校生までの子どもと、大学生以上の青年とで企画・実施する「こどもキャンプ」を行っています。



参加する子どもと青年とでミーティングを行い、スケジュールや食事のメニューなどを決め、8月に3泊4日のこどもキャンプを実施します。

こどもキャンプでは、子どもの主体性に任せ、子どもの発案を尊重しており、青年は、活動の記録などのサポート役に回っています。



自然の中で子どもだけという、いつもとは違う体験をすると、普段の生活を見つめ直す、いいきっかけになるよね!

### ここがポイント!

対象：小学4～高校3年生

(青年がサポート)

☆こどもキャンプを通じて、大学生と小学生など、多世代間の交流が生まれ、年齢に関係なく友人になれます。学校以外の友だちができる貴重な場です。

☆調整役の青年が、子どもたちのよいモデルとなり、あこがれの存在にもなっています。

☆実際の社会に関わりながら、社会への関心や具体的な行動につなげていく

# 川崎市子ども会議

(川崎市)

川崎市では「川崎市子どもの権利に関する条例」に基づき、子どもが自分たちの手で子どもの権利や川崎のまちづくりなどについて活動を進めていく「川崎市子ども会議」を行っています。

川崎市子ども会議は、10歳から18歳未満の子どもを構成員とし、毎月2回会議を開いて、「エコ」「福祉」などのテーマを決めてグループごとに活動したり、全体会議で話し合った結果について、市長へ提案を行っています。



子どもからの提案については、市長から回答書が提出され、意見の中で実現しなかったことについても、市は説明責任を果たすこととされています。

川崎市子ども会議を推進していくために、大学生や大人のサポーターが子どもの参画を支援し、話し合いの調整役となっています。



子どもが提案したことについて、実現できないことがあっても、きちんと説明してくれるとうれしいよね！

## ここがポイント！

対象：10～17歳

☆川崎市子ども会議は、地域・まちづくりに関するものから、学校づくりに関するもの、広く社会に関するものまで、幅広く意見提言を行っています。

☆市は、この意見提言に対して誠実に対応し、実現しなかったことについても、説明責任を果たすことが求められています。

☆実際の社会に関わりながら、社会への関心や具体的な行動につなげていく

# こどもまち探検ワークショップ

(和田町タウンマネジメント協議会・地域と子どもプロジェクトチーム)

横浜市保土ヶ谷区和田地区では、子どもたちが地域の実情と課題を知り、子どもと地域が親和的な関係に発展することを目標として、まち学習のワークショップを行っています。

1年1テーマを基本に「環境」「安全・安心」などのテーマを選び、地域における話題を組み込みながら、オリジナルプログラムの開発を行っています。



テーマを毎年変えることで、まち学習が始まる小学3年生以上の子どもが継続的に参加し、同じまちを異なる視点で捉えることができます。また、参加した子どもの中には、後に中学生となってから、スタッフとして協力する子もいます。

地域の緊急課題とリンクしたテーマ設定をすることで、地域の様々な立場の人や団体を巻き込むことができ、公園の再生活動への発展や、安全・安心のまち宣言などの具体的なまちづくり活動につながっています。



自分たちのまちのこって、あんがい知らないものだよね！  
まちのことをよく知れば、もつと好きになるんじゃないかな♪

## ここがポイント！

対象：幼稚園・保育園の年長～中学2年生

☆ワークショップに先立って実施した実態調査で、商店街やお店を買い物目的以外に散策する子どもの姿が浮き彫りとなり、商店街が、地域の中で子どもを見守り育てていく役割を担う可能性を持っていることがわかりました。

☆実態調査の結果等を、地域の様々な人や団体が共有することが、子ども視点での活動を始めるきっかけとなりました。

☆子どもの気持ちを深く理解した上で、関係者を調整し提案できる人を取組に加える

# すべての子どもが豊かに遊べる東京を

～次世代育成支援行動計画のための子どもの生活や意識に関する調査～

(TOKYO PLAY)

「すべての子どもが豊かに遊べる東京を」というミッションを掲げ、「遊ぶことの大切さ」を広げる活動を行っているTOKYO PLAYは、平成22年度に、東京都から「次世代育成支援東京都行動計画（後期）の評価に係る事業」を受託しました。

都内の児童館、コミュニティセンターなどの子ども約300人と、ひろば型の子育て支援拠点に来所する乳幼児の保護者約100人を対象にグループヒアリングを行い、子どもたちが普段は封印している生の声を拾う試みを行いました。



グループヒアリングでは、思いついたことをポストイットに書き、模造紙に貼っていきました。

グループヒアリングでは、研修を受けた20代後半から30代前半の若い世代が聞き手となり、学校以外の場に会場を設定して、6人から8人のグループで徐々に交流を深めながら、模造紙に自分の思いついたことをポストイットで書いたり貼ったりする作業を取り入れるなど、子どもたちの声が出やすくなる工夫を行いました。



話しやすい雰囲気の中で意見を言うことができ、すっきりしたよ！  
親のこと、学校のことなど、普段から聞かれていれば、もっとと言えるようになっていたと思うな。

## ここがポイント！

対象：10～18歳

☆子どもの声を社会に反映していくために、子どもたちが直接声を上げられる機会を保障しました。

☆ヒアリングは、子どもが自ら課題を解決する力をつけることへとつながります。また、結果の周知は、子どもの声を大切にできる社会づくりに有効です。

☆自分にできることを見つけたり、つくり出していく気持ちを育てる ほか

## 秋津っ子バザー

～現金のやり取りを通して生活者としての基礎的な素養を身につける不用品バザー～

(秋津コミュニティ)

千葉県習志野市秋津では、子ども自身が自分のおもちゃ箱を片づけて、不要なものを地域主催の「秋津まつり」の会場である学校に持参し、一品200円を上限として子ども同士で売り買いする「秋津っ子バザー」を行っています。



このバザーは、収益金の一部をボランティア団体に寄付することを通して、子どもが社会に参画し、社会性が身につく行事となっています。

バザー当日は、子ども自身が場所取りや値段つけをし、主催者側は「子どもに任せて親は口出しをしないように」指導しています。

子どもバザーと併設して大人のバザーも実施しており、自ずと多世代交流の場になっています。



たくさん売るために、値段のつけ方やおまけなど、自分で色々工夫できるのが面白いね!

### ここがポイント!

☆値引きやおまけ、他から買ったものを高く売る工夫など、子ども自身が見つけた「生きる力」を、大人は尊重することが大切と考えています。

☆学校を会場とし、毎回全ての児童に開催チラシを配布して、事前申し込みも不要という、参加しやすい運営を行っています。

対象：小学1～6年生

(卒業生である中学・高校生も参加可能)

# ヒア・バイ・ライト

(英国若者協会 (NYA) (英国))

全ての若者が、社会の中で彼らの可能性を発揮できるようにすることを支援する英国の民間団体英国若者協会 (NYA) は、「ヒア・バイ・ライト (Hear by Right)」という若者の施策への参画を促進するツールを開発し、その普及に取り組んでいます。



「ヒア・バイ・ライト」は、いかなる施策や事業であっても活用できるように工夫された、画期的な「子どもの参画の視点からの活動評価ツール」であり、このツールを用いることによって、子どもに関する全ての施策や事業を、子どもの視点からチェックすることができます。



具体的には「子ども・若者の参画の仕組み作りについて、彼らの意見を求めたり、検討作業に関わってもらったりしている」「子ども・若者の参画を裏打ちする予算が確保されている」という段階から、「子ども・若者はその組織や協力団体の職員や管理職の募集・選考及び任命に大きな役割を果たしている」という段階まで49の項目について、明確な根拠を基に判断を下し、改善策を予算やスタッフの配置まで含めて提言し、子どもの参画が実現するように働きかけるというものです。



海外で行われている子どもの社会参画の取組事例です。

## ここで紹介した取組事例に関するホームページや連絡先など

取組事例	実施団体	連絡先又はホームページアドレス
防災訓練を兼ねた一泊キャンプ	秋津コミュニティ	<a href="http://www.akitsu.info/">http://www.akitsu.info/</a>
きっすキャプテン	社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 KFJ多摩すかいきっす	電話 (044) 934-0801 FAX (044) 934-0802 <a href="http://www.kfjtama.or.jp/">http://www.kfjtama.or.jp/</a>
茅野市こども会議	茅野市、 茅野市教育委員会	電話 (0266) 72-2101 (内線 614) <a href="http://www.city.chino.lg.jp/">http://www.city.chino.lg.jp/</a>
児童青少年センター (ゆう杉並)	児童青少年センター (ゆう杉並) 中・高校生 運営委員会	電話 (03) 3393-4760 <a href="http://www2.city.suginami.tokyo.jp/kids/index.asp">http://www2.city.suginami.tokyo.jp/kids/index.asp</a>
6年生を主体とした 子ども会行事の企画・運営	鳶尾5丁目青空 子ども会	非公開
子どもたちがまちを創る	NPO法人 ミニシティ・プラス	電話 (045) 306-9004 (月～金 9～17時) <a href="http://minicity-plus.jp/">http://minicity-plus.jp/</a>
ぶちひらつか	子どもの社会性を育む 方策実践検証委員会	電話 (0463) 31-2385 (県立平塚商業高等学校内)
一日冒険遊び場	かまくら子育て支援 グループ懇談会	<a href="http://kamakurakosodate.seesaa.net/">http://kamakurakosodate.seesaa.net/</a>
くだかけバザー	NPO法人くだかけ会	電話、FAX (0465) 74-4770 <a href="http://www17.ocn.ne.jp/~kudakake/">http://www17.ocn.ne.jp/~kudakake/</a>
こどもキャンプ	NPO法人 横浜こどものひろば	電話 (045) 243-0762 <a href="http://homepage1.nifty.com/kids-arts-yokohama/">http://homepage1.nifty.com/kids-arts-yokohama/</a>
川崎市子ども会議	川崎市	電話 (044) 200-3309 (川崎市教育委員会生涯学習推進課) <a href="http://www.city.kawasaki.jp/88/88syogai/home/kodomokaigi/index.htm">http://www.city.kawasaki.jp/88/88syogai/home/kodomokaigi/index.htm</a>
こどもまち探検 ワークショップ	和田町タウンマネジメント 協議会・地域と子ども プロジェクトチーム	電話 (045) 339-4067 (横浜国立大学 藤岡准教授)
すべての子どもが 豊かに遊べる東京を	TOKYO PLAY	<a href="http://www.tokyoplay.jp/">http://www.tokyoplay.jp/</a>
秋津っ子バザー	秋津コミュニティ	<a href="http://www.akitsu.info/">http://www.akitsu.info/</a>
ヒア・バイ・ライト	英国若者協会 (NYA) (英国)	<a href="http://www.nya.org.uk/">http://www.nya.org.uk/</a>



## 神奈川県青少年問題協議会からのメッセージ

子どもの社会参画は、これまで難しいものと思われてきました。実際に難しいものではあるのですが、今回神奈川県では、それを実現に近づけるために、地域における取組の企画や運営方法をチェックする10の視点を作成しました。10の視点を持って検討していくこと、そして、複数の視点を連動させて取り組むことによって、子どもの社会参画は、徐々に実現できるようになるでしょう。

今ある地域の取組を、10の視点で実際に見直してみてください。急に全部を変えることはできないかもしれませんが、ほんの一部だけでも変えてみませんか？

視点の「メガネ」を身につけることによって、次回から、企画の立て方が変わっていくかもしれません。子どもたちにも検討してもらいましょう。

まずは、平成22・23年期神奈川県青少年問題協議会報告の内容を、ぜひ大人も子どもも、皆で共有してみてください。

特に、3.11の東日本大震災以後、日本社会は大きく変わってきており、子どもたちの中に、社会に関心を持ち、自分たちの役割を考え、できることを見つけようとする動きが見られます。子どもたちにも、社会の中でどんどんアイデアを出し、積極的に取り組んでもらうことが、望ましい社会につながっていくのではないのでしょうか。

今回の提案を参考にさせていただくことで、子どもの社会性が生まれ、さらに、子どもを含めた住民の誰もが、地域の活動に参加することにより、活力のある、より住みやすい社会となっていくことを期待しています。

### 神奈川県青少年問題協議会とは

地方青少年問題協議会法に基づき、青少年の指導、育成等に関する総合的施策の重要事項について、調査・審議を行う知事の附属機関（昭和28年設置）です。

平成22・23年度は、「地域で育む子どもの社会性 ～子どもの社会参画をすすめるために～」をテーマに審議を行いました。

### この冊子に関する問い合わせ先

神奈川県県民局青少年部青少年課  
(神奈川県青少年問題協議会事務局)

【電話】(045) 210-3840

【所在地】〒231-8588

神奈川県横浜市中区日本大通1

【ホームページ】

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5326/>

☆ここで紹介した内容や取組事例について、もっと詳しく知りたい方は、神奈川県青少年問題協議会のホームページに掲載されている「平成22・23年期報告」をご覧ください。